

第五百二十二回忌 『宗祇法師を偲ぶ会』 六月二十五日

第一部

宗祇法師に捧ぐ裾野の文化



コロナウィルス感染対策も少し緩和されたとは言え、多くの皆様にお集まりいただく事は避け、三十名ほどの出席者で開催いたしました。

来賓には、松濤軒五世 小林 静司宗匠、裾野市市議会議員 中村純也様、静岡県議会議員 鳥澤由克様、裾野市議会議員 賀茂博美様、裾野市文化協会会長 佐野彰一様、元宗祇法師遺跡保存会 櫻井讓様、桃園区長大竹柳二郎様がご参列くださいました。また、活動の評価と今後の活動への期待のお言葉を頂きました。

その後、定輪寺三十九世住職 中村雄介様による読経、大日本茶道学会教授 佐野仙由様による献茶、そして吟詠師範 水野陽瑠様・日本舞踊 花月流師範 花月乙千寿様、社中の花月乙葉様によるコラボで詩吟と舞、最後に小林宗匠指導、裾野連句会による奉納歌仙の吟声がおこなわれました。尚今年は歌仙を裾野市書道連盟の江波戸春桂様、鈴木真眼様に揮毫していただきました。

奉納歌仙「宗祇の記憶」の巻

捌 小林 静司

菖蒲酒宗祇の記憶よみがえる
兜飾りて句碑にそよ風
鯉幟村一番の旧家にて
手漕ぎの舟に父親を乗せ
どこからも見える聖峰肩に月
望遠鏡で鳴の看経
ウそこはかと香り漂う枳殻の実
津波を刻む寺の石段
いったんは流れた話ぶり返し
小さき胸に思い続けて
ありがたし神に賜る恋心
松葉蟹食べ沖に月出る
炉を囲み皆で聴きし生き字引
和服の立ち居いとも貴やか
弓道の正鵠を得し音のよき
百を越そうよ世間長寿
花の席馬子にも衣裳若づくり
刻を忘れて曲水の宴

ナオ 青き踏み弾むコーラス空近し
ステンドグラス放つ光彩
信徒寄す五島の聖堂遺産なる
別室に置く健康の器具
袖なしのワンピース着て早やはたち
肝だめしとて彼に抱きつき
背にある君の温もり切なくて
誰にもあるよ活きてゆく意味
幼より描く夢追う競技場
ダンスはルンパ軽きステップ
広き天ただ昼の月あるばかり
笑む野地蔵にあきつ寄り添う
盛装の忘れ扇は巾着に
孫も揃いて今日は何の日
湯上りの卓球楽し家族旅
雪代山女揺らすせせらぎ
久々の歌舞伎巡行花大樹
板長自慢の春のおまかせ

ナウ 起首 令和五年四月二十五日 満尾 令和五年五月二十九日

小林 静司
中村 雄介
村田 悠
風間 忠純
鳥澤 由克
中村 純也
本屋 良子
近藤 焦肝
宮澤 次男
半田 有杜
櫻井 讓
大竹柳 二郎
花月乙 千寿
山本 則一
上村 昭廣
横手 陵山
水野 森雄
佐野 彰一
佐野 仙由
賀茂 博美
名波 秀夫
桃井 昭一
川畑 政輪
宮原 了子
鴻巣 洋子
水口 英男
窪田 浩晃
木内 法美
平澤 千恵
佐藤 孝子
井上 輝夫
杉山 節子
桃井 伴子
勝又 丘女
宗 日菜
土屋 日菜